

**災害時における情報交換に関する協定
リエゾンを派遣し災害情報を共有**

7月25日、本市は国土交通省東北地方整備局と「災害時における情報交換に関する協定（リエゾン協定）」を締結しました。この協定は、災害時に適切な支援ができるよう情報交換を的確かつ迅速に行うことを目的としています。

東北地方整備局では、災害が発生した場合、被災自治体にリエゾン（災害対策現地情報連絡員）を派遣し、被災状況など情報の収集・提供を行い、災害情報を共有することで自治体を支援します。



▲握手を交わす酒井洋一郡山国道事務所長（右）と鈴木市長

**クリーンロード・キャンペーン
約300人が道路を清掃**

道路の意義や重要性への関心を高めるために制定された「道の日（8月10日）」にあわせ、8月9日、「クリーンロード・キャンペーン」が開催されました。

キャンペーンには、県建設業協会会員事業所の社員や行政関係職員など17団体約300人が参加し、国道289号や県道白河羽鳥線、市道白河駅八竜神線など、市内の主要道路で清掃活動を行ったほか、白河高校の生徒2人が「民間一日道路パトロール」を行い、道路の安全点検を実施しました。

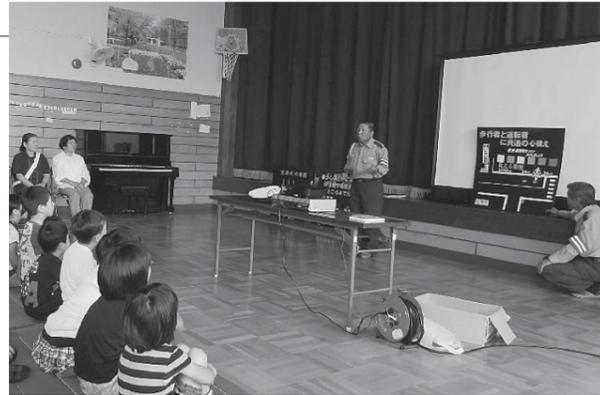


▲主要道路でゴミを拾う参加者

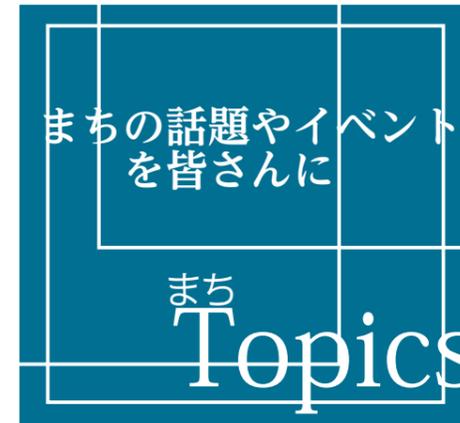
**交通教育専門員による交通安全教室
交通安全の意識を高める**

市交通対策協議会では、依頼のあった町内会を対象に、交通教育専門員による交通安全教室を実施しています。7月22日には、第一区自治会館（北登り町）で同町内会の交通安全教室が開催され、子どもと保護者あわせて60人が参加しました。

前半は専門員によるパネルを使った交通安全指導、後半は交通安全DVDの上映が行われました。子どもたちは、専門員からの質問に元気に答え、交通安全に対する意識を高めました。



▲専門員の説明を真剣に聞く参加者の皆さん



▲JR白河駅上空を彩る花火

**白河関まつり&しらかわ魂2013
白河関の踊り流しが15年ぶりに復活**

8月4日、JR白河駅周辺で、本市の夏の風物詩「白河関まつり」が開催されました。今年は、「白河関の踊り流し」が15年ぶりに復活し、市内の金融機関、県合同庁舎、市役所など17団体約750人が、大勢の観客の前で踊りを披露しました。また、県内外から集まった13団体が阿波踊りやよさこい踊りを披露し、祭りを盛り上げました。市民納涼花火大会では、昨年より500発多い、5千発の花火が打ち上げられ、夜空を美しく彩る花火に多くの歓声が上がりました。

JR白河駅前イベント広場で行われた「しらかわ魂2013」では、ダルライザーショーや元BOOWYの高橋まことさんのライブなどが行われ、会場は来場者の熱気に包まれていました。



▲しらかわ魂のステージイベント

**白二小落成記念式典
改築工事完了を祝う**

7月31日、改築工事が完了した白二小で、落成記念式典が行われました。同校は、施設の老朽化への対応と耐震性確保のため、平成22年度から工事を進め、7月にプールが完成し工事が終了しました。

式典では、児童を代表して、6年生の星陸斗君が「感謝の気持ちを忘れず、多くのことを学んでいきたい」と喜びの言葉を述べました。

記念行事として、合唱部・吹奏楽部による歌と演奏が披露され、落成を祝いました。



▲喜びの言葉を述べる星君